

## 2019年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2020年4月3日
研究・研修課題名	がん病態栄養専門管理栄養士、病態栄養認定管理栄養士の資格更新のための学会及び研修会参加
研究・研修組織名(所属)	栄養治療室
研究・研修責任者名(所属)	平井 順子(栄養治療室)
研究・研修実施者名(所属)	平井 順子(栄養治療室)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input checked="" type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果( )
該当者名(所属)	平井 順子(栄養治療室)
学会名(会期・場所)、認定名等	第23回日本病態栄養学会年次学術集会 (2020年1月25～26日・京都) 病態栄養認定管理栄養士
演題名・認証交付元等	一般社団法人日本病態栄養学会
取得日・認定期間等	2018年4月1日・認定期間5年
診療報酬加算の有無	<input type="checkbox"/> 加算有( ) <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input checked="" type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input checked="" type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果( )
該当者名(所属)	平井 順子(栄養治療室)
学会名(会期・場所)、認定名等	臨床栄養学オープンカレッジ～徳島大学大学院開放教室～ 最新のがん治療法を知る！ (2019年7月27～28日・徳島) がん病態栄養専門管理栄養士
演題名・認証交付元等	一般社団法人日本病態栄養学会
取得日・認定期間等	2020年4月1日・認定期間5年
診療報酬加算の有無	<input type="checkbox"/> 加算有( ) <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

## 目的及び方法、成果の内容

## ①目的

現在、がん病態栄養専門管理栄養士と病態栄養認定管理栄養士の資格を取得している。この資格は、栄養管理・栄養療法について高度な知識と技術を習得した管理栄養士の育成を図るためのものである。がん診療連携拠点病院の栄養士として、がんに対する予防・治療・ケアに食と栄養の側面から寄与するために必要な知識と技術を修得し、また、院内のがん患者の栄養管理のレベルを向上させることを目的とする。

## ②方法

がん病態栄養専門管理栄養士と病態栄養認定管理栄養士の資格を更新するためには、学会や研修会参加は必須である。研修会参加と学会発表を目指す。

(がん病態栄養専門管理栄養士の資格は、病態栄養認定管理栄養士資格を有していることが必須条件であるため、これら2種類の資格を更新する必要がある。)

①第23回日本病態栄養学会年次学術集会 参加(5単位)

(2020年1月25～26日 京都)

②臨床栄養学オープンカレッジ ～徳島大学大学院開放教室～  
最新のがん治療法を知る！ 参加 (5 単位)  
(2019 年 7 月 27 日・28 日 徳島)

### ③成 果

本年度、がん病態栄養専門管理栄養士の認定を更新することができた。

①第 23 回日本病態栄養学会年次学術集会 参加 (2020 年 1 月 25～26 日 京都)

病態栄養専門管理栄養士とがん専門管理栄養士の資格更新に必要な単位数のうち 5 単位 (学会参加 5 単位) を取得することができた。

教育講演として行われた「高血圧のガイドライン」については、2019 年にガイドラインが改訂されており、ガイドライン改訂の経緯や改訂のポイントについて説明があった。食生活を含めた生活習慣の修正は、高血圧症の治療のひとつである。根拠のある栄養食事指導を実践するために、診療や治療の基本となるガイドラインを理解することは重要であると感じた。

②臨床栄養学オープンカレッジ ～徳島大学大学院開放教室～ 最新のがん治療法を知る！  
参加 (5 単位) (2019 年 7 月 27 日・28 日 徳島)

本研修は、がん専門管理栄養士の資格更新のための必須研修のひとつであり、資格取得に必要な単位数のうち 5 単位を取得できた。

研修会 1 日目の内容は、①ロボット支援手術を知る、②造血肝細胞移植を知る、③肺がんの最新外科治療を知る、④消化器がんの治療と栄養、特に高齢患者の管理について、⑤消化器がん治療における栄養療法の意義―膵がんの予後を改善するためには―であった。2 日目の内容は、①食道がんの最新治療を知る、②新しいがん治療薬を知る、③がんゲノム医療を知る、④メタボとがん―最新のトピックスを知る―であった。1 日目、2 日目ともに、栄養管理についてだけではなく、各がんにおける診断や治療について詳細な講義内容であった。中でも、消化器がんの治療と栄養、特に高齢患者の管理については、フレイルやサルコペニアなど、高齢者特有の症状がさらに栄養状態の低下につながることで、また、早期から栄養管理を適切に行い、必要な栄養量や栄養素を確保していくことで、筋肉減少や体重減少を抑制できることについてエビデンスをもとに説明があった。外科的治療、化学療法や放射線療法などがん治療を無事に完遂でき、QOL を維持するためにも、栄養状態の維持は重要であり、効果的で、また、患者ひとりひとりに適した方法で、栄養管理を行っていくことが必要であると思われた。管理栄養士が、がん患者やがんに係る診療報酬に関わるが増えているため、がんの栄養管理においても研鑽を重ねていく必要があると考えている。